隠された学問について（魔術について）

抄訳

第一部第一章 魔術師が三重の世界から力を集める方法が本書には記されている事

四大元素の世界(である「この世」)、知的世界、天界という三重の世界が存在するし、

全ての下のものは、上のものによって統治されていて、上のものの力から感化を与えられている。

だから、天使、天、星々、四大元素、動物、植物、金属、石による全ての作用の、真の源の無上の作用者である神は、神の全能の力を神から人へ伝えているし、

神は、神の全能の力を神から人へ伝えるのに役立つように、人以外の全てのものを創造している。

人は、神から人への下降の階段によって、

三重の世界を通過して、源の世界である天界へ、全てのものの創造主である神へ、第一原因である神へ、全てのものの源である場所へ、全てのものが生じる場所へ、上昇する事が可能であるし、

人以外の優れているものに十分に含まれている力を楽しむ事が可能であるし、上のものから新しい力を引き寄せる事が可能である、

と賢者は考えている。

そのため、賢者は、

医学の助けによって、自然物による色々な混合物についての自然学の助けによって、四大元素の世界(である「この世」)の力を探求するし、占星術によって、数学によって、天の力を四大元素の世界(である「この世」)の力に加えて、天界の光線と感化力によって、天界の力を探求する。

さらに、賢者は、宗教の神聖な儀式によって、色々な知的存在である善良な霊的存在の力によって、四大元素の世界(である「この世」)の力と天の力の全てを確認した。

私、コルネリウス アグリッパは、その全ての順序と過程を本書で述べようと試みるつもりである。

第一部は自然の魔術についてである。

第二部は天の魔術についてである。

第三部は儀式による魔術についてである。

しかし、私、コルネリウス アグリッパには、この試みが許され難い傲慢であるかどうか分からない。

ほとんど学が無い、未熟な、私、コルネリウス アグリッパには、とても大胆な、この試みは、とても困難であろう。

そのため、既に話した全ての物も、これから話す全ての物も、普遍の教会(カトリック)が認めている物を越えない。

第一部 第二章 魔術とは、どのような物であるのか、魔術は、どのように分ける事ができるのか、魔術師として、どのように認められる必要が有るのか

魔術は、
不思議な力の才能であるし、
最高の神秘に満ちているし、
無上に神聖なもの、自然、力、性質、実体、自然の力、自然の知についての最深の熟考を含んでいるし、
自然物の不一致と一致を人に教えるし、
力によって諸物の諸力を完全に結びつけて諸物の諸力を一方から他方へ適用して、力によって諸物の諸力を完全に結びつけて諸物の諸力を一方から他方の適している下の実体へ適用して、諸物の諸力を結びつけて自然の不思議な作用を生じる源を人に教えるし、
上の実体の力を人に教える。

魔術は、
最も完全な第一の学問であるし、
神聖な崇高な学問であるし、
最も絶対に完全な優れている学問である。

なぜなら、(魔術を含む)全ての統制されている学問は自然学、数学、神学に分ける事ができる。

（

自然学は、世界に存在するものの原因、結果、時間、場所、流行、出来事の、全体と部分を調べて、世界に存在するものの性質を教えてくれる。

「数と世界に存在するものの性質は火、土、風といった『四大元素』と呼ばれるものがもたらす。
四大元素が天をもたらした。
四大元素が中間色の雲で海をもたらしているし虹をもたらす。
四大元素が、雷光を放つために、雷鳴を鳴らすために、雲を集めて黒くする。
四大元素が夜の輝きである星々と彗星をもたらす。
四大元素が地を盛り上げて震わせる。
四大元素が金属と黄金の種である。
四大元素が徳、安寧、自然という箱庭を保持している」

ウェルギリウスの詩によって教えて、四大元素がもたらす全てのものは自然学を自然の中の観察者に見せてくれる。

「源泉から全てのものが湧き出る。
源泉から人、獣が湧き出る。
源泉から火、雨、雪が湧き出る。
源泉から地震が起きる。
源泉によって海は波打つ。
源泉によって海は岸を越えてから後退する。

源泉から薬草の効力、勇気、獣の威力が湧き出る」

数学は、三次元に拡張して、天体の量、天体の運動と軌道を考える事を教えてくれる。

「大いに急ぐかのように、源泉は黄金の星々をとても速やかに進行させる。何か不名誉が有ったかのように、源泉は時々、月の面を隠すし、太陽の面を隠す」

また、次のウェルギリウスの詩のように、

「数学によって太陽は黄道十二星座を統治する。
数学によって天体は軌道上を行く。
数学が天の星の道を教えてくれる。
数学が不思議な日食や月食を教えてくれる。
数学が七つの星と北斗七星を教えてくれる。
数学が牛飼い座の明るい星アークトゥルスと雨の星々を教えてくれる。
数学は冬の太陽が西へ向かうのが、とても速い理由を教えてくれる。
数学は冬の夜が、冬以前の季節よりも、とても長い理由を教えてくれる」

これら全ての物は数学によって理解できる。

「このため、天によって予知できる。
天によって季節を全て予知できる。

天によって刈り入れる時と種をまく時を予知できる。
天によって心の奥底への着手に適切な時を予知できる。
天によって戦うのに適切な時と安眠に適切な時を予知できる。
天によって木々を掘り出すのに適切な時を予知できる。
天によって、木々が全力で実を結ぶ事ができるように、木々を植えるのに適切な時を予知できる」

神学は、
神が、どのような者であるのか、
精神が、どのような物であるのか、
知的存在である善良な霊的存在が、どのような者であるのか、
天使が、どのような者であるのか、
悪魔が、どのような物であるのか、
魂が、どのような物であるのか、
宗教が、どのような物であるのか、
神聖な教会、神聖な儀式、神聖な神殿、神聖な言葉、神聖な神秘が、どのような物であるのか、
教えてくれる。

神学は、
信心について、
奇跡について、
言葉と形の力について、
象徴の秘密の効力と象徴の神秘について、

教えてくれる。

また、アプレイウスが話しているように、神学は儀式の法、神聖なものの公平さ、宗教の法についての正しい理解と知を教えてくれる。

ただし、瞑想に没頭する事によってである。

）

魔術は自然学、数学、神学という三つの重要な物を包含して一つにして動かす。

当然ながら、そのため、古代人は魔術を無上の最も神聖な学問とみなした。

人々が知っているように、最も賢明な高名な著者達は魔術を明かした。

中でも、主に、ザモルクシスとゾロアスターは多数の人々が魔術という学問の創始者であると信じる程とても高名であった。

ビュペルボレオス人のアッバリス、カルモンダス、魔術師ダミゲロン、エウドクソス、エルミプスはザモルクシスとゾロアスターの魔術の後継者である。

メルクリウス トリスメギストス、ポルピュリオス、イアンブリコス、プロティノス、プロクロス、ダルダノス、オルフェウス、ギリシャ人のゴグ、バ

ビロニア人のゲルマ、ティアナのアポロニウスのように他にも高名な魔術師がいた。

オスタネスも魔術という学問において素晴らしい本を書いた。
オスタネスの本は散逸したので、デモクリトスは復元して注釈と共に発表した。

さらに、ピタゴラス、エンペドクレス、デモクリトス、プラトン、その他の多数の高名な哲学者達は魔術という学問を学ぶために船で遠くへ旅した。
そして、ピタゴラス、エンペドクレス、デモクリトス、プラトン達は、帰国して、すばらしい誠実さで、大いなる秘密として、魔術という学問を公表した。

また、ピタゴラスとプラトンが、魔術という学問を学ぶためにエジプトのメンフィスの神官の所へ行き、そして、シリア、エジプト、ヘブライ人の所、カルデア人の学派の所の、ほぼ全てへ旅した事は良く知られているし、ピタゴラスとプラトンが最も神聖な記録、魔術の記録について知っていたであろう事は良く知られている。
ピタゴラスとプラトンが神聖なものについての知を授けられたであろう事は良く知られているように。

そのため、魔術という能力について学ぶ事を望む人は、誰でも、もし、ものの性質を発見できる、全てのものの隠された性質を発見できる、自然学に熟達していなければ、

もし、全てのものの高尚な力と性質に依存している、数学、占星術のアスペクト、星々による形である星座に熟達していなければ、もし、全てのものをもたらしている非物質的な霊的な実体を明らかにしている、神学に熟達していなければ、魔術の合理性を理解できない。

なぜなら、自然学、数学、神学という三つの能力を含まない魔術が行う事ができる事は無いし、自然学、数学、神学という三つの能力を含まない魔術的な行いも無い。

第一部 第四章 四大元素の三層の考察について

既に話したように、四大元素が存在するが、
四大元素の完全な知識無しでは、魔術では何も達成できない。

四大元素には三層が存在する。

そのため、四という数は十二という数を形成できる。（四大元素×三層＝十二。）
また、十という数へ、七という数を経由して、無上の統一へ進む事ができる。（四大元素＋三層＝七。四大元素＋三層＋神の三位一体＝十。）
全ての力と不思議な作用は数十の無上の統一にかかっている。

第一層の四大元素は純粋な四大元素である。

混合していないし、変化しないし、混合を受容しない。
腐敗しないし、腐敗している物ではない。

純粋な四大元素によって、全ての自然物の力は作用を生じる。

純粋な四大元素の力(の全て)を明らかにできる人はいない。
なぜなら、純粋な四大元素は全ての物によって全ての事を行う事ができる。

純粋な四大元素について知らない人は不思議な事(、神の奇跡)を起こす事が決してできないであろう。

第二層の四大元素は混合している変化する四大元素の混合物である。

わざによって(四大元素の混合物を)純粋な四大元素に戻す事が可能である。(わざによって四大元素の混合物を)純粋な四大元素に戻すと、純粋な四大元素の力は、何よりも自然の全ての隠された作用を発揮させるし、自然の知られている作用を発揮させる。

純粋な四大元素の力は自然の作用を発揮させる事が全ての自然の魔術の基礎である。

第三層の四大元素は、元は四大元素であったが、四大元素ではない状態の物である、四大元素の混合物の混合物である。

変化に富んでいる。

ある物を他の物へ変化可能である。

第三層の四大元素は、絶対の仲介者である。

そのため、第三層の四大元素は「中間のもの」または「中間のものの魂」と呼ばれる。

(第三層の四大元素は、十九世紀の魔術師エリファス レヴィの「アストラル ライト」、「星の光」である。)

第三層の四大元素の奥深い神秘を理解している人は極少数である。
第三層の四大元素の奥深い神秘を理解している人は、ある人数によって、いくつかの段階によって、いくつかの宗教的儀式によって、自然の物、天の物、天を超越する物において、全ての結果を達成できる。
第三層の四大元素の奥深い神秘を理解している人は、不思議と神秘に満ちている。
第三層の四大元素の奥深い神秘を理解している人は、自然な神聖な魔術によって、影響を及ぼす。

束縛、解放、全ての物の変化(である錬金)、未来の予知や予言、悪霊を追い払う事、善良な霊の獲得は、三層の四大元素による物であるし、三層の四大元素に起因する。

そのため、人は、三層の四大元素無しでは、三層の四大元素の知識無しでは、魔術という隠された学問において、自然において、何かできると確信する事は許されない。

下層の四大元素を上層の四大元素に戻す方法を知る人は、四大元素の混合物を純粋な四大元素に戻す方法を知る人は、

人数、段階、宗教的儀式によって、実体を分裂させずに、三層の四大元素の性質と力を明確に理解する方法を知る人は、自然物と天の秘密の知識と完全な操作に簡単に到達できるであろう。

第一部 第五章 火と土の不思議な性質について

(神の光に近いアストラル ライトは火に例えられる。)
(物質は土に例えられる。)

全ての不思議な事を行うのに十分である、火と土という二つの物が存在する(とヘルメスは話している)。

火は自発的である。
土は受容的である。

火は、全ての物の中で、全ての物を通過して、輝いて、行き来する(と偽ディオニュシオスは話している)。

火は、全ての物の中で、輝いているが、同時に、隠されているし、未知である。

火は、(火が火の固有の作用を現す状態に至る他の物は無いので)単独であると、
無限で、目に見えないし、
火の固有の全ての作用に独りでに十分であるし、
動かす事が可能であるし、

ある意味で、火に近い全ての物に従うし、
自然を復活させるし、自然を保護するし、
知性を照らして啓発するし、
あいまいな光によってでは把握できないし、
はっきりしているし、
分かれているし、
はね返るし、
上方に曲がるし、
動きが速いし、
高いし、
常に上昇するし、
他の物を把握するし、
火自体は把握されないし、
他の物を必要としないし、
ひそかに独りでに増大するし、
火を受容するものに火の偉大性を現すし、
自発的であるし、
力強いし、
すぐには目に見えないが、全てのものの中に存在しているし、
侮辱できないし、対立できない、言わば、報いを与える一手段であるし、
突然に、諸物を火に従わさせる事ができるし、
理解不可能であるし、手で触れられないし、
減らす事ができないし、
施す物に最も満ちている。

火は、無限であるし、物の性質の中で悪戯好きな部分であるし、最も物を破壊するのか生じるのか疑問が有る(とプリニウスは話している)。

火は、唯一で、全ての物に浸透していて、天に広がっていて、輝いている(とピタゴラス学派の人々は話している)。

しかし、火は、地獄では、矯正されて、暗いし、苦しめるし、(この世といった)中間では、両方の性質を帯びる。

そのため、火は、唯一であるが、火を受容するものによっては多数、多様で、違う実体には違う様相で火は割り当てられる(とクレアンテスは話しているとキケロは記している)。

人が利用する火は他の物から取り出される。

火は鉄で打って石から取り出される。

土の中の火は掘り下げると煙に成る。

水の中の火は泉と井戸を暖める。

海の深みの火は風で動いていると海の深みを暖める。

（人が頻繁に見るように、）風の中の火は風を燃やす。

全ての動物、全ての生物、全ての植物は、熱によって保持されている。

全ての生物は潜在する熱によって生きている。

火の性質は、全てのものを多産にする熱であるし、全ての者に命をもたらす光である。

地獄の火の性質は、全ての者を焼き尽くす焼きつくような熱であるし、全ての者を不毛にする闇である。

天の火の性質は、闇の霊である悪霊を追い払う光の火である。

天の光の火と同様に似ている、人が木で起こした火も、闇の霊である悪霊を追い払う。

人が木で起こした火は、天の光を仲介する。

ヨハネによる福音八章十二節で「私は世の光である」と話しているイエスという光は、真の火であるし、光の父である神であるし、もたらされている全ての善いものはイエスから来ているのである。

イエスという光は、イエスの火の光を放ち、太陽に結びついてから太陽以外の天体と結びつき、天体によって、天体を仲介者として、イエスの火の光を人の火に伝える。

闇の霊である悪霊は、闇で、強まる。

光の天使である善良な霊は、イエスの火の光、神聖な光、太陽光、天体の光、人の普通の火の光で、強く成って行く。

そのため、賢明な宗教は、儀式の祈りや歌といった全ての崇拝方法を明かり無しでは行うべきではない、と定めた。

（このため、同じ意味で、ピタゴラスは「光無しでは神について話すなかれ」と話している。）

また、賢明な宗教は、悪霊を追い払うために、贖罪の儀式をして埋葬するまで死者の遺体のそばで光や火を灯すべきである、と定めている。

旧約聖書で大いなるヤハウェは、全ての捧げ物を火と共に捧げるように、祭壇の上に火を灯すように、命じている。

祭壇の祭司は、この決まりが守られるように、常に監視した。

ローマで祭司は、この決まりを保持した。

四大元素の基礎は土である。

なぜなら、土は、物質であるし、実体であるし、全ての天の光と感化の受容体である。

土には、全てのものの種と種の力が含まれている。
そのため、土は動物、植物、鉱物であると言える。
土は水、火、風によって多産に成って、土と天は全てのものを独りでに生じる。

土は全てのものからの満ちあふれを受容する。

土は、言わば、最初の源泉である。
土から全てのものは湧き出る。

土は、中心であるし、基礎であるし、全てのものの母である。

望むだけ土を取って分けて洗浄して細かくしても、少し外気の中に置くと、天の力に満ちて、植物、虫といった生物、石、金属の光を独りでに生じる。

いつでも、火の助けによって土を洗浄して純粋に戻せば、土には大いなる秘密が存在する。

土は、人の創造における第一質料であるし、人を治し保持する真の薬である。

第一部第八章天、星、悪霊、天使、神の中に、どのように四大元素が存在するのか

原型の世界では、全てのものの中に全てのものが存在する、と全てのプラトン主義者は全員一致して同意している。

そのため、この物質世界でも、全てのものの中に全てのものが存在する。

このため、四大元素は、この下の肉体だけではなく、天、星、悪霊、天使、全てのものの原型である創造主である神の中にも存在する。

この下の肉体の中では、四大元素は、大いに粗雑な物質と共に存在する。

天の中では、四大元素は、天の性質と力と共に存在する。
言い換えると、天の中では、地上のものの中の四大元素が神の四大元素を模倣して地上より優れた様相で存在する。

天の土の堅固さは、この世の水の粗雑さ無しで存在する。
天の風の敏速さは限度を越えない。
天の火の熱は、燃やさずに輝いて、熱によって命を全ての者にもたらす。

惑星では、太陽と火星は火の元素の惑星である。

金星と木星は風の元素の惑星である。
水星と土星は水の元素の惑星である。
(多数の魔術師は月を水の元素の惑星と考えているが、)月と第八の天体(である天王星)などは土の元素の惑星である(とコルネリウス アグリッパは考えている)。
なぜなら、土であるかのように、月は、天の水を受容して、天の水を引き寄せる。
月は、地球が月に近いので、人に天の水を放射して、人と交流する。

黄道十二宮にも、火の元素の宮、土の元素の宮、風の元素の宮、水の元素の宮が存在する。

四大元素は、黄道十二宮を四大元素の最初、四大元素の中間、四大元素の最後に分けて、天の中で黄道十二宮も統治している(とコルネリウス アグリッパは考えている)。

白羊宮は火の元素の最初である。
金牛宮は土の元素の最初である。
双児宮は風の元素の最初である。
巨蟹宮は水の元素の最初である。
獅子宮は火の元素の中間であり、進歩、増大である。
処女宮は土の元素の中間であり、進歩である。
天秤宮は風の元素の中間であり、進歩である。
天蝎宮は水の元素の中間である。

人馬宮は火の元素の最後である。
磨羯宮は土の元素の最後である。
宝瓶宮は風の元素の最後である。
双魚宮は水の元素の最後である。
（とコルネリウス アグリッパは考えている。）

そのため、四大元素と、惑星と黄道十二宮の混合物によって、全ての天体は創造されている。

悪霊も四大元素に分ける事ができる。
そのため、ある悪霊は火の元素の悪霊であるし、
ある悪霊は土の元素の悪霊であるし、
ある悪霊は風の元素の悪霊であるし、
ある悪霊は水の元素の悪霊である。

このため、冥界の四つの川でも、
燃え盛る川プレゲトンは火の元素の川であるし、
悲嘆の川コキュートスは風の元素の川であるし、
不死をもたらすステュクスは水の元素の川であるし、
苦悩の川アケローンは土の元素の川である。

福音書にも、地獄に堕ちた人が入るように命じられる「地獄の火」、「永遠の火」について記されている。

ヨハネの黙示録には、「火の池」について記されている。

イザヤ書には、主である神は風によって地獄に堕ちた人を罰する、と記されている。

ヨブ記には、
「熱さが雪水を奪い去る」と記されているし、
地は暗く、死と悲惨の暗闇に覆われた、と記されている。

天の天使と神聖な知的存在である善良な霊的存在にも四大元素が存在する。

天使には実体の安定性が存在する。
天使の実体の安定性は土の元素の力である。
天使の実体の安定性に、安定している神の座は存在する。

天使の思いやりと神への畏敬は水の元素の清める力である。

詩篇で詩篇の作者は、天について話して、
天使を「水」と呼んで、「天の上にいる『水』」に(「主である神をたたえるように」)命じている。

天使の霊妙な息は風の元素の力である。
天使の愛は輝く火の元素の力である。

そのため、(詩篇といった旧約)聖書では、天使を「風の翼」と呼んでいる。

詩篇で詩篇の作者は、天使について話して、「神は、風を使者とする。火を代行者、使者とする」と話している。

偽ディオニュシオスの天使の位階では、
四の能天使パワーズ、五の力天使ヴァーチャーズ、九の熾天使セラフィムは火の元素の天使である。
八の智天使ケルビムは土の元素の天使である。
二の大天使アークエンジェルズ、七の座天使スローンズは水の元素の天使である。
三の権天使プリンシパリティーズ、四の主天使ドミニオンズは風の元素の天使である。
(とコルネリウス アグリッパは考えている。)

聖書には、全てのものの創造主である神が地を開いて救世主イエスをもたらした、と記されていないか?

聖書には、神は清めて復活させせる命の水の源泉である、と記されていないか？

聖書には、神は命の息を吹き込む霊である、と記されていないか？

聖書でモーセとパウロは、神は焼き尽くす火である、と話している、と記していないか？

そのため、四大元素を全ての場所で見つける事ができる。
全てのものの中に四大元素を見つける事ができる事を、人は否定できない。

四大元素は、この下の肉体の中では汚れていて粗雑であるが、天では清らかである。

四大元素は、天を超越している世界では生きている。
四大元素は、全ての点で、神聖である。

四大元素は、原型の世界では、被造物の原型である。
四大元素は、知的世界では、割り当てられた能力である。
四大元素は、天では、力である。
四大元素は、下の肉体では、粗雑な形である。

第一部第十一章どのように「イデア」、「原型」は「世界の魂」、「星の光」の助けによって隠された力をものの性質に吹き込むのか、隠された力に最も満ちているものは何か

（アストラル ライトは「世界の魂」とも呼ばれる。）
（「アストラル ライト」は「星の光」を意味する。）

上の原型は全ての下の肉体の原型である、とプラトン主義者は話している。

「イデア」は肉体、魂、精神より上の単一な純粋な清らかな不変な分割不可能な霊的な永遠な「原型」である、とプラトン主義者は定義している。

「イデア」、「原型」は全て、肉体、魂、精神より上の単一な純粋な清らかな不変な分割不可能な霊的な永遠なものである、という同一の性質である。

第一に、プラトン主義者は、「イデア」、「原型」を、原因として、神として、善そのものの中に突き止めた。

諸々の「イデア」、「原型」は、ある相対的な考察によってのみ区別されるが、

諸々の「イデア」、「原型」は、少なくとも(天の神の)世界に存在するので、

諸々の「イデア」、「原型」は、(各々、)多数ではなく、単一であるべきである。

少なくとも神は実体が単一に複合しているべきであるので、諸々の「イデア」、「原型」は、本質的に、一致する。

(例えば、真実、善、美が一致するように。)

第二に、プラトン主義者は、「イデア」、「原型」を、「世界の魂」として、知性そのものの中に突き止めた。

諸々の「イデア」、「原型」は、絶対的な形によって区別される。

神の中では、全ての「イデア」、「原型」は、(各々、)単一の形しか持たない。

「世界の魂」の中では、全ての「イデア」、「原型」は、(各々、)多数の形を持つ。

肉体につながっている精神であれ、肉体につながっていない精神であれ、全ての他の者の精神の中に、諸々の「イデア」、「原型」は置かれている。

諸々の「イデア」、「原型」は、(精神に、)ある程度、関与しているので、徐々に、ますます、特色を出して行く。

(第三に、)プラトン主義者は、「イデア」、「原型」を自然の中に突き止めた。

なぜなら、

「イデア」、「原型」は、ある小さい、形の種（たね）を(自然の中に)吹き込んでいる。

(第四に、)プラトン主義者は、「イデア」、「原型」を物質の中に影として突き止めた。

補足すると、「世界の魂」の中では、「イデア」、「原型」は、ものの多数の、種（たね）の形として存在する。

神の精神の中では、「イデア」、「原型」は「イデア」、「原型」として存在する。

星々より上の天で神の精神が実行した形は、神の精神の形を形成して、神の精神の形を全ての星のある性質に刻み込んでいる。

そのため、形と性質、下の種（しゅ）の全ての力と性質は、星にかかっている。

このため、全ての種（しゅ）には、種（しゅ）に相応しい天の形が存在する。

また、種（しゅ）は、作用する不思議な力を生じる。

種（しゅ）は、「世界の魂」の中の種（たね）の形を通じて、種（しゅ）の「イデア」、「原型」から、固有の力を授かる。

なぜなら、「イデア」、「原型」は、全ての種の根源的な原因である、だけではなく、種に内在する全ての力の原因である。

(実に、ものの力は「イデア」、「原型」からの作用であるが、)天の感化力が、ものの本質に存在する性質を動かす。

　言い換えると、

天の感化力には、唯一の確実な基礎が存在するし、
天の感化力は、必然であるし、
天の感化力は、有効であるし、強いし、十分であるし、
天の感化力は、無駄に実行しない、
と多数の哲学者は話している。

　天の感化力は実行において誤りが無いが、物質の不純物や不つり合いが原因で誤りが生じる。

　このため、同じ種の中でも、多かれ少なかれ、物質の純度や乱れに比例して、強弱が存在する。

物質の不足や乱れは、全ての、天の感化力を妨げる。

これが、「物質的な報いに応じて天の力は吹き込まれる」というプラトン主義者の言葉の由来である。

　ウェルギリウスも詩で、これについて言及している。

「ものの性質は、火であるし、上からの物である。ものの性質は、粗雑な体から解放されると、神の力で動く」

そのため、原型が無い物質が、原型に、より似ているほど、原型の作用に似て、作用において、より強い力が有る。

このため、天の状態や形が下の種に内在する全ての素晴らしい力の原因である、と理解できるであろう。

第一部 第十二章 同じ種の中でさえも、どうして特定の力が特定の個体に吹き込まれるのか

多数の個体には、天の星々の形と状態からの物である、種のように不思議な独特の能力が存在する。

全ての個体は、ホロスコープと星座の下に存在する時から、種から受容する力とは別に、性質として、顕著な何かに作用したり顕著な何かを受容したりする特定の不思議な力と関係を持つ。

（ホロスコープは、占星術で使用する、黄道十二宮における地表と太陽と月と惑星の位置関係である。）

個体の独特の力は、
一部は、天の感化力によって作用し、
一部は、個体の物質が「世界の魂」に従う事によって作用する。

物質が「世界の魂」に従うのは、実に、肉体が魂に従うような物なのである。

（「世界の魂」は十九世紀の魔術師エリファス レヴィのアストラル ライトである。）

なぜなら、人(の魂)は、肉体が人(の魂)の中に存在する、と感じているし、人(の魂)は、物質についての人(の魂)の考えに従って肉体は動かされる、と感じているし、人(の魂)は、人(の魂)が何かを恐れるか避けると、肉体は自発的に動く、と感じている。

何度でも、天の魂が個体について考えると、天の魂に従って、個体の物質は動かされる。

自然では、上の動きによる創造力によって、色々な不思議な物事が現れる。作用者の魂が同一の方向に傾くならば特に、色々な不思議な物事は、自然な力だけではなく、時には人工の力も含めて、色々な力を抱いて創造する。

そのため、「ここで(、地上で)実行される全ての事は、事前に、(既に、)星々、諸天体の動きや考えの中で実行されている」とアヴィセンナは話している。

このため、物事において、多様に配置された物質だけではなく、多数の人々が考えているように、多様な感化力と形が、多様な結果、傾向、配置をもたらす。

本当に明確な違いではなく、独特な違いが(、物事において、多様な結果、傾向、配置をもたらす)。

全てのもの「第一原因」である神は、物事が実行される諸段階を、色々な者に割り当てている。
不変である神は、神意に適うように、物事が実行される諸段階を、全ての者に割り当てている。

「第二原因」（である「七つの霊」である「七大天使」）、天使、天の者は、肉体や物質の処理についてと、肉体や物質と関係が有る霊的なものの処理について、神と協力する。

そのため、神が、「世界の魂」を通じて、全ての力を吹き込んでいる。

ただし、
類似による特定の力に従って、
力を統治している知的存在である善良な霊的存在に従って、
「(星の)光」の合流に従って、
ある独特の調和的な一致による、占星術のアスペクトに従って、
神は、「世界の魂」を通じて、全ての力を吹き込んでいる。

（占星術のアスペクトは、ホロスコープにおける、零度以上百八十度以下の、天体間の角度の差である。）
（ホロスコープは、占星術で使用する、黄道十二宮における地表と太陽と月と惑星の位置関係である。）

第一部 第十三章 隠された力は、どこから生じるのか

磁石には鉄を引き寄せる力が存在する事と、ダイアモンドが磁石の力を奪う事は、全ての人々に良く知られている。

琥珀(コハク)と炭を擦(こす)り合わせると麦わらを引き寄せる。

石綿(アスベスト)は燃えると消火が困難である。

赤色の宝石(カーバンクル)は闇の中で輝く。

イーグルストーンは、若い女性や若い果実より上に置くと女性や果実を強めるが、下に置くと発育不全を引き起こす。

碧玉(ジャスパー)は止血する。

あるコバンザメは船を止める。

ルバーブという野菜は短気を追い払う。

カメレオンの肝臓を燃やすと、にわか雨と雷が起きる。

ヘリオトロープとも呼ばれるブラッドストーンは目をくらませて、ブラッドストーンを身につけている者を目に見えなくする。

リュクリウス石は目の前から錯覚を除去する。

リッパリス石の香りは全ての獣を呼び寄せる。

シノキティス石は地獄の霊を呼び寄せる。

アナキティス石は神々の映像を出現させる。

エンネシスを夢を見ている者の下に置くと神託が起きる。

ある薬草がエチオピアには存在していて、池や湖を干上がらさせて、池の中に閉ざされていた全てのものを公然と成らせる、とエチオピア人は話している。

ラタシェと呼ばれる薬草は、ペルシャの王が王の代理人へ授けると、どこへ代理人が来ても、代理人が全てのものに満ちあふれる、と記されているのをコルネリウス アグリッパは見た事が有る。

ある薬草がスキタイには存在していて、食べるか口に含んでいると、十二日間スキタイ人は飢えと渇きに耐えられる、とスキタイ人は話している。

「人が永遠に長生きできる多数の種類の薬草や石が存在するが、人が永遠に長生きできる薬草や石の知を理解する事は正しくない。
なぜなら、実に、人は、短い時間だけ生きて、全力で害を学び、悪の全ての様相を試みるべきである。
もし、人が長生きできると確信したら、人は神々のために自身の身を削らないであろう」と神託がアプレイウスに教えてくれた、とアプレイウスは話している。

しかし、ものの性質についての膨大な書物を記している全ての人々は、薬草や石などの力が、どこからの物であるのか、全く明らかにしていない。
ヘルメス、ボッカス、アーロン、オルフェウス、テオプラストス、テービト、ゼノテミス、ゾロアスター、エヴァクス、ディオスコリデス、ヘブライ人のイサク、バビロニア人のザカリアス、アルベルトゥス、アルノルドゥスは、薬草や石などの力が、どこからの物であるのか、全く明らかにしていない。

けれども、ヘルメスなど全ての魔術師は「大いなる力と人の運命は石と薬草の力の中に横たわっている」という同じ事を認めている。

ザカリアスはミトリダテスに「大いなる力と人の運命は石と薬草の力の中に横たわっている」と書いている。

薬草と石の力が、どこから来るのか知るには、より高い考察が必要である。

アリストテレス学派のアフロディシアスのアレクサンドロスは、感性と資質によって、「四大元素が薬草と石の力をもたらす」という意見であるが、薬草や石が同じ種であれば、「四大元素が薬草と石の力をもたらす」という意見の質は多分に真実であると思われる。

しかし、石の諸作用の多くは、種類とも種とも一致しない。

そのため、プラトンとプラトン主義者は、薬草と石の力の原因は、ものの前身である、「イデア」、「原型」であると考えている。

しかし、

アヴィセンナは、薬草と石の力の作用の原因は知的存在である善良な霊的存在である、と考えている。

ヘルメスは、薬草と石の力の原因は星々である、と考えている。

アルベルトゥスは、薬草と石の力の原因は、ものの特殊な形である、と考えている。

プラトン達、魔術の権威は相互に考えを阻んでいるように見えるが、プラトン達の考えを正しく理解すれば、プラトン達の考えは全て真理から外れていない。

なぜなら、プラトン達の言葉は全て、ほとんどのものにおいて、結果的に同一である。

なぜなら、第一に、神は全ての力の最初であり最後である。

神は「イデア」、「原型」の徴（しるし）を神の従者である知的存在である善良な霊的存在に託す。

知的存在である善良な霊的存在は、

（「ティマイオス」でプラトンが話しているように、）王である神の中に存在する形を、受け取ってから、星々によって伝えるまでの間に、物質を配置して、

神に忠実な役人として、「イデア」、「原型」の力、天、星々を手段として、神から託された全てのものに署名する。

星々といった、形をもたらすものは、神の知的存在である善良な霊的存在の助けによって、形を流通させる。

神は神の知的存在である善良な霊的存在を神の作品の統治者、管理者としている。

神は、知的存在である善良な霊的存在に託しているものである薬草や石などの力を、知的存在である善良な霊的存在に託している。

そのため、石、薬草、金属といったものの力は全て、統治者である知的存在である善良な霊的存在からの物である、としても良い。

このため、ものの形と力は、第一には、「イデア」、「原型」から来る。
ものの形と力は、第二には、ものの形と力を統治している知的存在である善良な霊的存在から来る。
ものの形と力は、第三には、天が配置している占星術のアスペクトから来る。
ものの形と力は、第四には、天の感化力に応じて、天が配置している四大元素の傾向から来る。

そのため、下のものでは、表（おもて）に表れている形が、石、薬草、金属などの作用を発揮する。
天では、配置している力が、石、薬草、金属などの作用を発揮する。
知的存在である善良な霊的存在では、仲介している法則が、石、薬草、金属などの作用を発揮する。
「第一原因」である神では、「イデア」、「原型」が、石、薬草、金属などの作用を発揮する。

形、力、法則、「イデア」、「原型」は全て、結果の達成と、全てのものの力において、必然的に一致する。

このため、全ての薬草と石には不思議な力、作用が存在する。

ただし、一つの星には、全ての薬草と石を超越している、より大いなる不思議な力、作用が存在する。

全てのものは、星を統治している知的存在である善良な霊的存在から、特に第一原因である神から、多数のものを受け取って獲得する。

神によって、全てのものは、言わば賛歌における様に常に全てのものの無上の創造主をたたえて、唯一に調和的に一致して、相互に正確に調和する。

「アザルヤの祈りと三人の若者の賛歌」の炉の中の三人の子のように、全てのものは、歌って神をたたえるように求められている。

人の子達と共に、地上で成長する全てのもの、水の中で動く全ての者、天の全ての鳥、獣、動物は、主である神をたたえなさい。

そのため、神という唯一の、諸結果の必然の原因だけが存在する。

このため、第一原因である神と全てのもののつながりと、神の永遠の「イデア」、「原型」と全てのものの一致が存在する。

原型の世界で全てのものが定められた独特の立場を持つ所から、全てのものは生きて独自の存在を受け取る。

薬草、石、金属、動物、言葉、話す事の全ての力と、神の全てのものは、原型の世界に存在する。

第一原因である神は、知的存在である善良な霊的存在によって実行するし、下のものによって作用するが、直接的に自分で実行する時が有る。

神が直接的に実行する事を「奇跡」と呼んでいる。

プラトンなどが「従者」と呼んでいる第二原因(である七つの霊である七大天使)は、第一原因である神の命令、任命によって、当然、実行するので、結果をもたらすために必要とされるが、

もし神が、神意に従っているにもかかわらず、第二原因(である七つの霊である七大天使)を解任して一時停止させて、第二原因(である七つの霊である七大天使)が完全に命令、任命をやめれば、神が直接的に実行する事を「神の最も大いなる奇跡」と呼んでいる。

このため、(神の奇跡によって、)カルデア人の炉の火は、「アザルヤの祈りと三人の若者の賛歌」の子達を燃やさなかった。

また、(神の奇跡によって、)ヨシュアの命令によって、太陽は、一日分、逆行した。

また、(神の奇跡によって、)ヒゼキヤの祈りによって、太陽は、十度か十時間、逆行した。

また、(神の奇跡によって、)イエス キリストが十字架にはりつけにされた時、太陽は暗くなって、満月でも暗かった。

神の奇跡の作用の理由は、論理的な話によってでも、魔術、隠された学問、奥深い学問によってでも、発見したり理解したりできないが、神託によってのみ、知る事ができるし、調べる事ができる。

第一部第十四章「世界の魂」について、「世界の魂」とは、どのようなものであるのか、「世界の魂」は仲介者として、どのように隠された力を物体に結びつけるのか

（「世界の魂」は十九世紀の魔術師エリファス レヴィのアストラル ライトである。）

デモクリトス、オルフェウス、ピタゴラス学派の多数の人々は、天のものの力と下のものの性質を入念に調べて、「全てのものは神に満ちているし、全てのものには原因が存在する」と話している。

なぜなら、神の助け無しに自身の性質を充足している超越的な力を持つものなど存在しない。

デモクリトス、オルフェウス、ピタゴラス学派の多数の人々は、「ものの中に広がっている神の力」を「神々」と呼んでいる。

ゾロアスターは、「ものの中に広がっている神の力」を「神の魅力」と呼んでいる。

シュネシオスは、「ものの中に広がっている神の力」を「神の誘惑」と呼んでいる。

他の、ある人々は、「ものの中に広がっている神の力」を「命」と呼んでいる。

別の、ある人々は、『ものの中に広がっている神の力』にかかっている」と話して、「ものの中に広がっている神の力」を「魂」と呼んでいる。

なぜなら、「ものの中に広がっている神の力」は、「ものの中に広がっている神の力」が作用しようとしている色々なものに広がっている唯一のものによる、魂の性質である。

知力を知力で理解できるものに広げるし、想像を想像できるものに広げる人も、色々なものに広がっている唯一のものによる、魂の性質によっているのである。

デモクリトス、オルフェウス、ピタゴラス学派、ゾロアスター、シュネシオス達が「唯一のものの魂が伝えられて、変化させたり、作用を妨げたりして、別のものの中に入る」と話している時に理解していたものが、唯一のものによる、魂の性質なのである。

ダイアモンドは磁石が鉄を引き寄せる事ができないように磁石の作用を妨げるように。

なぜなら、魂は動く第一のものである。

また、デモクリトス、オルフェウス、ピタゴラス学派、ゾロアスター、シュネシオス達が話しているように、

魂は魂自身で動く。

ところが、肉体や物質は、肉体自体や物質自体には能力が無いし、動く能力が無いし、魂より大いに劣化している。

そのため、デモクリトス、オルフェウス、ピタゴラス学派、ゾロアスター、シュネシオス達は「肉体や物質より優れている仲介者が必要である」と話している。

肉体や物質より優れている仲介者とは、肉体が無い魂のようなもの、または、魂が無い時の肉体のようなものである。

また、肉体や物質より優れている仲介者とは、魂と肉体を結びつけるものである。

デモクリトス、オルフェウス、ピタゴラス学派、ゾロアスター、シュネシオス達は、肉体や物質より優れている仲介者が「世界の魂」であると考えた。

十六世紀現在の魔術師達は「世界の魂」を「第五元素」と呼んでいる。

なぜなら、「世界の魂」は、四大元素からのものではなく、四大元素より上の、四大元素とは別の、ある第一のものである。

従って、天の魂を粗雑な肉体と結びつけて、不思議な能力を肉体にもたらす、ある種(しゅ)の霊、仲介者である「世界の魂」が存在する。

人の魂が人の肉体の中に存在する、のと同様に、

仲介者である霊である「世界の魂」は、この世という世界の物体の中に存在する。

仲介者である霊である「世界の魂」によって、人の魂の力と肉体の各部が結びついている、ように、

「世界の魂」によって、「世界の魂」の力は全てのものの中に広がっている。

このため、「世界の魂」の力の痕跡が無いものは世界には存在しない。

「世界の魂」のほとんどは、「世界の魂」のほとんどを受け取ったものの中に吹き込まれている。

「世界の魂」は、「星の光」によって、ものが「世界の魂」と適合するまで、受け取られる。

「世界の魂」は、隠された性質を、太陽、月、惑星、惑星より高い星々を経由して、薬草、石、金属、動物に伝える。

四大元素から「世界の魂」を分離する方法を知る人には、「世界の魂」は、より有益である。

または、

少なくとも「世界の魂」にほとんど満ちているものを本質的に利用できる人には、「世界の魂」は、より有益である。

なぜなら、「世界の魂」は、肉体の中で肉体に溺れていないほど、物質の中で物質に阻止されていないほど、より強く完全に作用して、より物質を創造しやすい。

肉体の中で肉体に溺れていない「世界の魂」によって、物質の中で物質に阻止されていない「世界の魂」によって、全ては創造的に成って、力の温床と成る。

このため、錬金術師は黄金や銀から「世界の魂」を分離しようと試みている。

「世界の魂」を正しく分離して、「世界の魂」を金属といった物質に放射すると、「世界の魂」は金属といった物質を黄金や銀に変える。

コルネリウスアグリッパは、錬金の方法を知っているし、実際に黄金が錬金されたのを見た事が有る。

しかし、私、コルネリウスアグリッパは「世界の魂」を分離した物質の重さ以上の黄金を創造できなかった。

なぜなら、「世界の魂」は形が広範囲であるし集中的ではないので、「世界の魂」は限度を越えて変化して不完全な物体を完全な物体に変えない。

私、コルネリウス アグリッパには「世界の魂」を分離した物質の重さ以上の黄金を創造できなかったが、別の方法で「世界の魂」を分離した物質の重さ以上の黄金を創造できるかもしれない。

第一部 第十五章 ものの力を類似によって、どのように見つけ出して調べる必要が有るか

ものの隠された性質は、四大元素の性質からの物ではなく、上から吹き込まれている、と明らかに成ったたし、ものの隠された性質は、人の感覚から隠されている、と明らかに成ったたし、人の思考力は、ものの隠された性質を、最終的には、かろうじて知る事ができる、と明らかに成った。

ものの隠された性質は、実に、「星の光」を経由している、「命」、「世界の魂」からの物である。

人は、経験と推測によってのみ、ものの隠された性質を調べる事ができる。

そのため、ものの隠された性質の学問に参入したい人は「全てのものは、動いて、自身を類似のものに向けて、隠された力という性質において、四大元素の力という性質において、類似のものを自身に全力で傾ける」と考える必要が有る。

また、時には、「全てのものは、動いて、自身を類似のものに向けて、実体において、類似のものを自身に全力で傾ける」。

人が塩において理解しているように。

なぜなら、長時間、塩と共に存在したものは全て塩味に成る。

全ての仲介者、代行者にとって、全てのものは、作用し始めると、自身より下のものを創造しようとせず、多分に、自身に類似のものを創造しようとする。

また、人々は「健康的な動物の栄養の力は、肉を薬草や植物に変えるのではなく、肉を健康な(人などの他のものの)体に変える」事を明らかに理解している。

このため、全てのものの中には、熱さ、冷たさ、大胆さ、恐怖、悲しみ、怒り、愛、憎悪や、その他の感情や、力といった、性質の過剰さが存在する。

全てのものの中には、性質が、自然によってであろうと、時には人為によってであろうと、不測の事態によってであろうと、存在する。

淫らな女性には、大胆さが存在する、ように。

全てのものは、とても大いに動いて、類似の性質、感情、力を招く。

そのため、「火」は「火」へ動くし、

「水」は「水」へ動くし、

大胆な人は大胆さへ動く。

「脳は脳を改善するし、肺は肺を改善する」と医者に良く知られている。

(中国では「動物の脳を食べると人の脳が改善されるし、動物の肺を食べると人の肺が改善される」という趣旨の事が言われている。)

また、そのため、「カエルの自然な色の布に包んで首に掛ければ、カエルの右目は人の右目の炎症を改善するし、カエルの左目は人の左目の炎症を改善する」と言われている。

カニの目でも類似の事例が報告されている。

カメの右手は右手の、左手は左手の、右足は右足の、左足は左足の、痛風を改善する。

同様に、「不妊の動物は他の者を不妊にする」と言われている。

特に不妊の動物の睾丸(こうがん)、子宮、尿は他の者を不妊にする。

このため、「毎月ラバの尿やラバの尿に浸(ひた)された全ての物を飲んでいる女性は不妊に成る」と人々は報告している。

(現在でも水の入手が困難な場所では家畜の尿を飲む人々が存在する。)

そのため、何らかの性質や力を獲得したい人は、類似の動物や類似のものを探求しなさい。

類似のものの中には類似の性質が、類似していないものより、優れた様相で存在する。

類似のものの中の類似の部分を取れば、性質や力が最も強い。

いつでも愛を育(はぐく)みたい人は、ハト、カメ、スズメ、ツバメ、セキレイといった最も愛を示す動物を探して、心臓、睾丸(こうがん)、子宮、男性器、精液、月経

血といった性欲が最も強い部分を、動物が愛を最も激しく抱いている時に、取りなさい。そうすれば、愛を引き寄せる。

同様に、大胆さを増すには、ライオンやオスのニワトリを探して、心臓、目、額を取りなさい。

また、このために、プラトン主義者のプセルロスの「犬、カラス、オスのニワトリは、用心深さを大きく助ける」という言葉を理解する必要が有る。

鳥のナイチンゲール、コウモリ、ミミズクの心臓、頭、目は特に用心深さを助ける。

そのため、「カラスやコウモリの心臓を携帯する人は、カラスやコウモリの心臓を退けるまで眠れない」と言われている。

「起きている時に乾燥したコウモリの頭を右腕に縛りつけた人が眠ると、乾燥したコウモリの頭をはずすまで起きれない」と言われている。

カエルやフクロウは人の口数を多くする。

特にカエルやフクロウの舌や心臓は人の口数を多くする。

水生カエルの舌を眠っている人の頭の下に置くと、眠っている人は寝言を話す。

オオコノハズクの心臓を眠っている女性の左胸の上に置くと、眠っている女性は自身の秘密を寝言で話す。

同様に、「ミミズクの心臓、ウサギの腰の脂肪を眠っている人の胸の上に置くと、眠っている人は自身の秘密を寝言で話す」と言われている。

同様の理由で、長生きしている動物は長生きを助ける。

「『自分で自身を再生する力を持つ者は人の肉体の再生と若返りを助ける』のは真実であると知っている」と医者はよく明言している。

毒ヘビやヘビによって「自分で自身を再生する力を持つ者は人の肉体の再生と若返りを助ける」事は明らかである、ように。

「オスのシカはヘビを食べて若返る」事は知られている。

同様に、フェニックスは自身のために作った火によって再生する。

ペリカンには自身を再生する力が存在する。

ペリカンの右足を暖かい肥やしの下に置くと、三か月後、ペリカンが再生する。

ある医者達は毒ヘビ、ヘレボルスという植物、ペリカンなどの動物の肉による糖剤によって若返らせた。

ギリシャ神話で魔女メディアが老いたペリアスを若返らせ(る嘘の方法をペリアスの娘達に教えて殺し)たように。

「クマの傷の血を吸えば、肉体の強さを増す」と信じられている。

なぜなら、クマは最強の生物である。

第一部 第十六章 どのように力の作用は、あるものから別のものへ伝わって相互に交流するのか

自然のものの力は大いなる物であるので、自然のものは力が近くの全てのものに作用する、だけではなく、
自然のものは類似の力を近くの全てのものに吹き込むし、
自然のものが近くの全てのものに吹き込んだ類似の力によって、近くの全てのものも他のものに作用する、と知る必要が有る。

人々が見るように、アウグスティヌスとアルベルトゥスが見たと話しているように、磁石は鉄を引き寄せる、だけではなく、磁石は力を鉄に吹き込み、磁化された鉄は鉄を引き寄せる。

同様に、アウグスティヌスとアルベルトゥスが話しているように、
一般的に淫らな女は基本的に図々(ずうずう)しいほど大胆であり、近くの全ての者に、図々(ずうずう)しいほど大胆という性質による感化を与えて、淫らな女の近くの全ての者は淫らな女のように大胆に成る。

そのため、淫らな女の肌着を身につけたり、淫らな女が日ごろ見ていた手鏡を携帯したりすると、生意気で図々(ずうずう)しいほど大胆に淫らに成る、とアウグスティヌスとアルベルトゥスは話している。

同様に、死体を包んでいた衣服を身につけると、悲しく憂鬱(ゆううつ)に成る、とアウグスティヌスとアルベルトゥスは話している。

絞首刑に使用された縄（ロープ）には不思議な性質が有る。

同様の話をプリニウスが話している。

盲目にした緑色のトカゲを鉄か黄金の指輪と共にガラス容器の中に入れて地下に置きガラス容器を密閉し、トカゲが視力を取り戻したらトカゲをガラス容器から出すと、鉄か黄金の指輪は目の炎症を改善するし、鉄か黄金の指輪が、どんな刺し傷のイタチの目でも、視力を取り戻させる事は確実である。

同様の理由で、

しばらくの間、スズメかツバメの巣の中に置かれていた指輪は愛、愛情を入手するのに昔は使われた。

第一部 第三十三章 自然のものの印や文字について

全ての星には固有の性質、状態が有る。

星は「星の光」で星の印や文字を四大元素、石、植物、動物、星に所属するものといった下のものの中にもたらす。

全てのものは、調和している配置から、また、照らされている星から、調和や星の象徴である固有の印や文字を受け取って刻み込まれる。

調和や星の印や文字は、一般的に具体的に数的に固有の力を含んでいる。

そのため、全てのものには、固有の結果として、星が刻み込んだ固有の印や文字が有る。

特に、全てのものには、固有の結果として、ものを統治している主要な星が刻み込んだ固有の印や文字が有る。

星の印や文字は固有の性質、力、星の根源を含んで保持している。

星の印や文字は星と類似の作用を他のものにもたらす。

星の印や文字は、惑星であろうとも、恒星であろうとも、「星の光」を反射して、「星の光」をかき混ぜて、星の感化力を助ける。

天の星の印や文字は、作るたびに、相応しいものに、しかるべき慣例の時間に、作る必要が有る。

古代の賢者達は、熟考して、ものの隠された性質の発見に大いに労苦して、星の印や文字を文書に記録した。

自然は「星の光」で星の印や文字を石の中、植物の中や枝の節、動物の各部の中といった下のものの中に描いた。

月桂樹、ｌｏｔｅ ｔｒｅｅ、マリーゴールドは、太陽の植物であり、根の中や切断された節の中に、太陽の印や文字を表す。

動物は、肩甲骨といった骨の中に、星の印や文字を表す。

このため、肩甲骨による占いが生まれた。

また、石の中や石のように硬い物の中に、天のものである星の印や文字がよく見つかる。

しかし、ものの多様性は非常に莫大なので、伝統的な知識は存在せず、人の理解が到達可能なものは、ほとんど無い。

そのため、植物の中、石の中、動物の各部の中などに見つかる星の印や文字を離れて、

私、コルネリウス アグリッパは、人の性質にだけ話を限るつもりである。

人は、天の調和の全体を含んでいる、宇宙全体の完全な象徴である。

疑いなく、人は、全ての星の印や文字と、天の感化力と、天の性質と違いが少なく、より有効な性質に満ちている。

しかし、神だけが、下のものに刻み込まれている、星々の数、星々の作用、星々の印や文字を知っている。

このため、人の知力は、下のものに刻み込まれている、星々の数、星々の作用、星々の印や文字の知識に到達できない。

そのため、人は、下のものに刻み込まれている、星々の数、星々の作用、星々の印や文字の、ごくわずかな知識しか知らない。

古代の学者達と手相占い師達は、ある程度は論理によって、ある程度は経験によって、下のものに刻み込まれている、星々の数、星々の作用、星々の印や文字の、ごくわずかな知識に到達した。

このため、自然という宝庫の中には未だ隠されている知識が多数、存在する。

私、コルネリウス アグリッパは、古代の手相占い師達が人の手の中に見つけた惑星の印や文字について少しだけ記すつもりである。

聖書には、人生は人の手に記されている、と記されている。

そのため、ユリアヌス帝は、人の手の惑星の印や文字を「神の文字」と呼んでいる。

人の手の惑星の印や文字は、全ての国と言語で常に同じであるし、惑星に似ているし、永遠である。

古代の手相占い師達のように、後世の手相占い師達は、さらに多数の、人の手の惑星の印や文字を見つけた。

後世の手相占い師達が見つけた人の手の惑星の印や文字を知りたい人は、後世の手相占い師達の文書を読む必要が有る。

自然の文字の根源の説明と、自然の文字の根源をたずねるべきものの説明で十分であろう。

後記は、ユリアヌス帝が「神の文字」と呼んでいる、人の手の惑星の印や文字である。

人の手の土星の印や文字

(画像省略)

人の手の木星の印や文字

(画像省略)

人の手の火星の印や文字

（画像省略）

人の手の太陽の印や文字

（画像省略）

人の手の金星の印や文字

（画像省略）

人の手の水星の印や文字

（画像省略）

人の手の月の印や文字

第一部 第三十七章 いくつかの特定の自然な人為的な用意によって、どのように特定の天の命の能力を引き寄せる事ができるのか

全ての地上のものは生成と破壊に従う。天界にも生成と破壊は存在するが、天の様相で存在する。知的世界にも生成と破壊は存在するが、地上より遥かに完全な良い様相で存在する。ただし、原型の世界の様相が最も完全である。とヘルメスとプラトン主義者は話しているし、ヤルカス ブラクマヌスとヘブライ人のメクバルスは告白している。

生成と破壊のように、同様に、無上の存在である神によって、全ての下のものは上のものに対応している。

全ての下のものは、天(の星々)から、天の(星々の)力を受け取っている。魔術師は天の(星々の)力を「第五元素」、「世界の魂」、「自然の仲介者」と呼んでいる。

全ての下のものは、知的世界から、全ての下のものの性質を超越している、命をもたらす霊的な力を受け取っている。

全ての下のものは、原型の世界から、他の世界の仲介によって、ものの段階に応じて、全ての完全なものの原型の力を受け取っている。

このため、下の世界から星々の世界へ、星々の世界から知的世界へ、知的世界から第一原因である神へ、全てのものを適切に遡る事が可能である。

全てのものの連続と位階が魔術の全て、全ての隠された学問をもたらす。

日々、人為は自然なものを引き寄せるし、自然は神のものを引き寄せる、のを見た古代エジプト人は自然を「魔術師」と呼んでいる。

魔術の力では、類似のものは類似のものを引き寄せるし、対応するものは対応するものを引き寄せる。

上のものと下のものの相互の類似や対応が類似のものや対応するものを引き寄せる、のを古代ギリシャ人は「共鳴」と呼んでいる。

そのため、土の元素は冷たい水の元素と対応するし、
水の元素は湿っている風の元素と対応するし、
風の元素は火の元素と対応するし、
水の元素によって、火の元素は天と対応する。

火の元素は水の元素と、そのままでは混ざらないが、風の元素によって混ざるし、
風の元素は土の元素と、そのままでは混ざらないが、水の元素によって混ざる。

このため、魂は肉体と、そのままでは一体化しないが、神の聖霊によって一体化するし、
神の聖霊は、神の聖霊だけでは理解できないが、魂によって理解できる。

そのため、自然は、幼子の肉体を形成して用意したら、すぐに、世界から
神の聖霊を引き寄せる、
と魔術師達は理解している。

神の聖霊は、神について理解する手段と成るし、
神の聖霊は、魂が精神を獲得する手段と成るし、
神の聖霊は、魂が肉体を獲得する手段と成る。

乾燥した木が油を吸収するのに適しているように、
乾燥した木に吸収されている油が火の糧(かて)と成るように、
火が光を仲介するように。

これらの例によって、いくつかの特定の自然な人為的な用意によって、ど
のように人は特定の天の能力を上から受け取る事ができるのか理解するであ
ろう。

なぜなら、石や金属は薬草と対応しているし、
薬草は動物と対応しているし、
動物は天(の星々)と対応しているし、
天(の星々)は知的存在である善良な霊的存在と対応している。
また、石、金属、薬草、動物、天(の星々)、知的存在である善良な霊的存
在は、神性と対応しているし、神と対応している。
(なぜなら、)神の像に似せて、全てのものは創造されている。

神の第一の像は世界であるし、
世界の像は人であるし、
人の像は動物であるし、
動物の像は、半分、動物であり、半分、植物である、食虫植物であるし、
食虫植物の像は植物であるし、
植物の像は金属であるし、
金属の像は石である。

霊的には、石と金属は植物と一致するし、
植物的には、植物は動物と一致するし、
感覚では、動物は人と一致するし、
理解では、人は天使と一致するし、
不死性では、天使は神と一致する。

神性は、精神に付与されるし、
精神は、知性に付与されるし、
知性は、意思に付与されるし、
意思は、想像に付与されるし、
想像は、感覚に付与されるし、
感覚は、ものに付与される。

これが自然の帯、自然の連続である。

全ての上のものの力は、長い連続によって、光を最後のものにまで伝えて、全ての下のものに伝わる。

全ての下のものは、上のものによって、無上の存在である神にまで至る。

なぜなら、下のものは、連続的に、上のものと繋（つな）がっている。

そのため、無上の、第一原因である神から(下のものへ)感化が与えられている。

ある弦（げん）を引っ張ると、最も下の弦（げん）にまで及（およ）ぶように。

一方の端の弦（げん）に触れると、すぐに全ての弦（げん）が振動して、他方の端の弦（げん）まで鳴らす。

下のものが動くと、上のものも動くし、他のものも対応する。

十分に調律されているリュートの弦（げん）のように。

（リュートはギターに似ている弦楽器である。）

第一部 第三十八章 上から、天の命の能力だけではなく、特定の知的な神聖な能力をどのようにもたらす事ができるのか

上のものに類似している下のものによって、適切な時機の天の感化力は、上から天の能力をもたらす事ができる。

と魔術師達は教えている。

また、天の能力は、星への奉仕者である天の天使を人にもたらす事ができる。

神の自然の力が有る、いくつかの特定の物質は、上から、天の命の能力だけではなく、特定の天使の知的な神聖な能力をもたらす事ができる。

とイアンブリコス、プロクロス、シュネシオス、全てのプラトン主義者達は確証している。

神の自然の力が有る物質とは、自然学と天文学の法則に従って適切な時機に集めて適切に収容している、上のものと自然に対応している物である。

天使は、天使自身のために割り当てられた、特定の適切な物で適切に作られた像に、命を与える。

とメルクリウス トリスメギストスは記しているし、アウグスティヌスは「神の国」の第八巻で記している。

なぜなら、天のものは、天を超越しているものをもたらすし、自然のものは、超自然的なものをもたらすのが、世界の調和なのである。

なぜなら、全ての種類のものに広がっている唯一の効力が有る力が存在する。

全ての種類のものに広がっている唯一の効力が有る力は、隠された原因から、あらわれているものをもたらす。

そのため、魔術師は、あらわれているものを利用する事によって、言い換えると、「星の光」によって、天のものと対応している香、光、音といった自然のものによって、隠されたものをもたらす。

自然のものには、物質的な性質と、ある種の思考力、感覚、調和と、霊的な神聖な基準と秩序が存在する。

このため、古代人は、頻繁に、特定の自然のものによって、神聖な不思議なものを受け取っていた。

と記されているのを私、コルネリウス アグリッパは見た事が有る。

そのため、ジャコウネコの瞳の中に出来た石を人が舌の下に保持すると予言できるように成る、と言われている。

セレナイト、ムーンストーンも人が舌の下に保持すると予言できるように成る、と言われている。

アナキティスと呼ばれる石は神々の映像を呼び出す事ができる、と言われている。

シノキティス石によって死者の霊を呼び出して交流できる、と言われている。

アラビアの魔術師が利用する、死者の霊を呼び出して交流できる、メモライツとも呼ばれるアグラオフォティスという薬草は、アラビアの大理石に生（は）える、とプリニウスは話している。

レアンゲリダと呼ばれる薬草による飲み物を飲んでいる魔術師は予言ができる。

さらに、いくつかの薬草は、死者を復活させる。

バルスと呼ばれる薬草は、殺された未熟な竜を復活させたし、竜に殺されたティラムを復活させた。

と歴史家のクサントスは教えている。

アラビアで、ある薬草が、ある人を復活させた、とジュバは話している。

薬草か薬草以外の自然のものの力が実際に人を復活させるかどうか、私、コルネリウス アグリッパは後の他の章で話すつもりである。

薬草などの自然のものが人以外の動物を復活させる事は明らかに確かである。

溺死したハエは、暖かい灰の中に入れられると、復活する。

キャットニップとも呼ばれるイヌハッカという薬草の汁は、溺死した蜂（ハチ）を復活させる。

水分不足で死んだウナギは、全身を酢（す）とワシの血による泥の中に入れられると、数日で復活する。

あるコバンザメをバラバラに切って海に投げ入れると、少しの時間で断片が集まって、あるコバンザメは復活する、と言われている。

母ペリカンは、自身の血で、殺された子ペリカンを復活させる、事は知られている。

第一部 第三十九章 世界のいくつかの特定の物質によって、世界の神々や、世界の神々に仕える霊を動かす事ができる事

神を冒涜する邪悪な行為は悪人の霊を呼ぶ。

と人々は知っている。

悪人の霊の魔術師は神を冒涜する邪悪な行為で悪人の霊を呼んでいる。

とプセルロスが話しているように。

憎むべき不道徳が、悪人の霊の魔術師の後に続いた。

過去に男性器の神プリアポスに捧げものを捧げたように。

偶像崇拝でパーンと呼ばれる偶像に性器を露出して捧げものを捧げたように。

偶像崇拝は、古代のキリスト教徒が記録している、憎むべき異端と似ている。

魔女や悪女は偶像崇拝や異端と類似の行為を行っている。

女性は愚かな愛着で魔女や悪女の邪悪さに陥り（おちい）やすい。

偶像崇拝や異端と類似の行為は悪人の霊を呼ぶ。

かつて悪人の霊がヨハネに悪人の霊の魔術師シノプスについて話したように。

「サタンの全ての力が、そこ(、偶像崇拝や異端と類似の行為)に存在している。シノプスは全権と共に悪人の霊どもとの同盟に入れられている。同様に、悪人の霊どもは全権と共にシノプスとの同盟に入れられている。シノプスは悪人の霊どもに従うので、悪人の霊どもはシノプスに従う」と悪人の霊どもはシノプスに話した。

逆に、人は、善行、清らかな精神、ひそかな祈り、誠実に恥じ入る事などによって、天(空)を超越している天使や霊に近づく事ができる。

と人々は知っている。

善行、清らかな精神、ひそかな祈り、誠実に恥じ入る事などによって、世界のいくつかの特定の物質によって、

人は、世界の神々や、少なくとも世界の神々に仕える霊や、メルクリウスが話しているように天(空)を超越していない高位ではない空中の霊を呼ぶ。

と信じて疑うなかれ。

古代の祭司は、像を作って未来を予言させたし、星の霊を像に吹き込んだ。

と記されているのを私、コルネリウス アグリッパは見た事が有る。

特定の物質による束縛が星の霊を像に留めたのではなく、特定の物質が星の霊を喜ばせて星の霊を像に留めたのである。

言い換えると、星の霊は、自身に対応する物質を認めて、像に常に喜んで留まって、(未来などを)話したり、不思議な奇跡を行ったりした。

同様に、悪人の霊は、人の肉体に取り憑いた時、未来を予言したり、超常現象を起こしたりする場合が有る。

第一部第四十九章光、色、ロウソク、ランプについてと、各色は、どの星、黄道十二宮、四大元素に所属するのか

光は形を取る性質が有る。
光は単一の作用である。
光は理解の表れである。

第一に、神の精神は光を全てのものに放射している。
実に、光の父である神では、光は第一の真の光である。

第二に、神の子イエスでは、光は美しい満ちあふれている輝きである。

第三に、神の聖霊では、光は、全ての知的存在である善良な霊的存在を超越している、燃える輝きである。

さらに、偽ディオニュシオスが熾天使セラフィムについて話しているように、天使では、光は、放射されている、輝く知性である。

天使では、光は、思考の全ての限界を超越している、満ちあふれる喜びであるが、光を受け取る知的存在である善良な霊的存在の性質に応じて、光は色々な度合いで受け取られる。

第四に、光は天体に降下する。
天体では、光は、命の貯蔵庫と成る。

天体では、光は、効果的な伝達者と成る。
天体では、光は、目に見える輝きと成る。

第五に、火では、天が、ある自然の活力を光に吹き込む。

第六に、人では、光は、思考力での明確な会話である。
人では、光は、神のものについての知である。
人では、光は、完全な理性である。
しかし、アリストテレス学派の人が持つような肉体の性質のためか、より正しくは、光をもたらす神の善い神意のため、光は多様である。
神は、思い通りに、光を全てのものにもたらす。(神は、人に応じた光を人にもたらす。)

光は、想像へ移動するが、感覚を超越していて、想像できるだけである。
光は、想像から感覚へ移動する。
特に、光は、想像から視覚へ移動する。
視覚で、光は、目に見える明るさと成って、肉体の他の明るい部分へ広がる。

肉体の明るい部分では、光は、色と、輝く美しさに成る。
しかし、肉体の暗い部分では、光は、特定の助けに成る創造的な力と成る。
光は、中心に浸透する。
中心では、光線が狭い所に集められて、光は暗い苦しめる燃える熱と成る。

そのため、全てのものは、自身の収容能力に応じて、光の命の力をとらえる。

光は、命をもたらす熱を光に加えて、全てのものを透過して、光の性質と力を伝える。

このため、病人の尿を病人の影にばらまく事と、病人の尿を太陽や月の光にさらす事を、魔術師達は禁止した。

なぜなら、病人の尿を透過した光は、病人の体の有害な性質を健康な人の肉体に伝えて作用する。

そのため、魔術師は魔術の道具を自身の影で覆うようにする。

このため、ジャコウネコは犬の影に触れて犬を黙らせる。

また、ランプ、たいまつ、ロウソクが人工的に作る光が存在する。

星々の法則に従って適切に選んだ特定のものと油で、星々の調和に従って星々に囲まれて作られたランプ、たいまつ、ロウソクは、灯すと輝き、人々が不思議に思う天の結果を常にもたらす。

交尾後の雌馬の有害物質をたいまつで照らすと、馬の頭の奇形の光景を現す。

とプリニウスがアナクシラスの話から引用しているように。

同様に、交尾後の雌ロバの有害物質をたいまつで照らすと、ロバの頭の奇形の光景を現す。

ハエを混ぜたロウソクは、灯すと、ハエの奇形の光景を作る。

蛇の皮をランプに入れて灯すと、複数の蛇の光景を現す。

瓶（ビン）を、花盛りのブドウの木に縛りつけて、油で満たし、ブドウの実が熟すまで放置して、瓶（ビン）の油をランプに入れて灯すと、ブドウの光景が見られる。

同様に、瓶（ビン）を、花盛りの果樹に縛りつけて、油で満たし、果実が熟すまで放置して、瓶（ビン）の油をランプに入れて灯すと、果樹の光景が見られる。

セントリー、ハチミツ、タゲリという鳥の血を混ぜてランプの中に入れて、灯すと、ランプの周りに立っている者は普段より遥かに大きく見えるであろうし、晴れた夜に灯すと、相互に星々をばらまくように見えるであろう。

イカの墨（スミ）にも同様の力が存在し、
イカの墨（スミ）をランプの中に入れて灯すと、黒人達の光景が現れる。

いくつかの特定の土星のもので作られたロウソクを灯して、最近、死んだ人の口の中で消火すると、以後、灯すたびに、ロウソクの周りに立っている人々に悲しみと恐怖をもたらすであろう。

　同様のたいまつやランプについて、
ヘルメスは話しているし、
プラトンは話しているし、
「キラニデス」に記されているし、
アルベルトゥスは論文に記している。

　また、色は、ある種の光である。

　ものに色を混ぜると、色に対応する星々にさらす事に成り、ものを星々と対応させる。

　私、コルネリウス アグリッパは後で、惑星の光の色について話すつもりである。

　惑星の光の色は、恒星の性質を理解させる。
惑星の光の色は、ランプやロウソクの火に応用できる。
　しかし、私、コルネリウス アグリッパは第一部 第四十九章では、下の混合物の色と惑星の対応について話すつもりである。

黒色、透明、土色、鉛色、茶色は、土星と対応している。

サファイア色、空色、緑色、あざやかな色、紫色、やや暗い色、金色、銀色混じりの色は、木星と対応している。

赤色、焼けるような色、火の色、燃えるような色、青紫色、紫色、血の色、鉄色は、火星と対応している。

金色、サフラン色、紫色、明るい色は、太陽と対応している。

白色、金色や白色、不思議な色、緑色、赤色、サフラン色と紫色の中間色は、水星と金星と月に対応している。

（とコルネリウス アグリッパは考えている。）

黄道十二宮では、白羊宮と天秤宮は、白色と対応している。

金牛宮と双魚宮は、緑色と対応している。

双児宮と宝瓶宮は、サフラン色と対応している。

巨蟹宮と磨羯宮は、赤色と対応している。

獅子宮と人馬宮は、ハチミツ色、黄褐色と対応している。

処女宮と天蝎宮は、黒色と対応している。

（とコルネリウス アグリッパは考えている。）

四大元素には色が存在する。

四大元素の色によって、自然学者は、自然の性質について判断している。

冷たさと乾燥の原因である土の色である茶色と黒色は、四体液説の黒胆汁、陰気な性質を表す。

白色に近い青色は、四体液説の粘液を表す。

なぜなら、冷たさは白色をなすし、湿気や乾燥は黒色をなす。

赤みがかった色は、四体液説の血液を表すが、火の色、燃えるような色、焼けるような色は、四体液説の黄胆汁を表す。

黄胆汁は、希薄で、他の物と混ぜるのに適しているので、多様な色をもたらす。

黄胆汁を血液と混ぜて、血液が最も支配的に成ると、黄胆汁はバラ色をなすが、黄胆汁が支配的に成ると、黄胆汁は赤みがかった色をなす。

黄胆汁と血液が均等に混ざると、黄胆汁は、わびしい赤色をなす。

黒胆汁を血液と混ぜて、黒胆汁と血液が均等に混ざると、麻の色をなす。

血液が支配的に成ると、赤色をなす。

黒胆汁が支配的に成ると、やや赤い色をなす。

黒胆汁を黒胆汁と混ぜると、黒色をなす。

黒胆汁を粘液と混ぜて、黒胆汁と粘液が均等に混ざると、麻の色をなす。
粘液が支配的に成ると、泥の色をなす。
黒胆汁が支配的に成ると、青みがかった色をなす。

粘液を粘液と混ぜて、均等に混ざると、淡い黄色をなす。
均等に混ざらないと、青白い色をなす。

さて、絹、金属、明瞭な物体、宝石では、全ての色は、より有力である。
色が天体に似ている物では、全ての色は、より有力である。
特に、生物では、全ての色は、より有力である。

第一部 第五十章 魅了と魅了の術について

魅了は、魅了された人の目を透過して心臓に入った魔女の精気がもたらす拘束である。

魅了の道具は精気である。

精気は、心臓の熱が、より純粋な血で作った、いくらか純粋な透明な霊妙な蒸気である。

精気は、常に、目を透過して、精気のような「光」を放射している。

精気が放射している「光」は、霊的な蒸気を運ぶ。

かすみ目や充血した目には血の蒸気として見えるように、霊的な蒸気は(霊化した)血の蒸気である。

ある者を見ている相手の目に放射されている、ある者の「光」は、崩れた血の蒸気を運び、ある者の感化力によって、伝染病のように、ある者を見ている相手の目に感化を与える。

強い想像力と共に、開いている目を誰かに向けると、精気の「光」を放射する事に成る。

精気の「光」は、相手の目の中に入る、精気の仲介者である。

精気の「光」による、愛がこもった精気は、魅了している人の胸から起こって、魅了された人の目を透過し、魅了された人の胸に取り憑き突き刺し、魅了された人の精神に感化を与える。

このため、アプレイウスは「あなたの視線が、私の目を通過して、私の胸の中にすべり込んで、私の精髄の中で激しく燃える」と話している。

最も魅了された人とは、頻繁に見て、視界の端を、魅了している人の視界の端に向けているし、相互に視線を向けているし、「光」と「光」を結びつけている。

と知りなさい。

なぜなら、そうすると、一方の精神と他方の精神は結びついて、精神の閃光を結びつける。

こう成ると、強い拘束が作られる。

そのため、視線だけで、一目（ひとめ）、見るだけでも、激しい愛が燃え上がる。

まるで矢が全身を貫いたかのように。

このため、このように、突き刺さった精気、愛する血は、愛する相手と魅了者に伝わる。

そのように、他ならない、血によって、殺された者の報復の精神は、殺した者に作用する。

次のように、詩でルクレティウスは魅了について話している。

「肉体が打たれて、盲目のキューピッドの愛の矢が精神に突き刺さった。全部が愛の矢の傷に共感して、知る。打たれた者に血が現れる」

魅了の力は大いなる物なのである。

特に、目からの蒸気が愛を助ける場合は、魅了の力は大いなる物なのである。

魔女は、感化を与えるために、精神を強めるために、(特に目元に塗る)化粧、軟膏(なんこう)、主張などをあれこれの方法で利用した。

魔女は、愛を生じさせるために、媚薬(びやく)、ハトやスズメの血といった性の(特に目元に塗る)化粧を利用した。

魔女は、恐怖を生じさせるために、オオカミ、ジャコウネコの目といった、火星と対応している(特に目元に塗る)化粧を利用した。

魔女は、不幸や病気をもたらすために、土星と対応する(特に目元に塗る)化粧を利用した。

など。

第二部 第三十七章 占星術のフェイスの像についてと、黄道十二星座以外の星座の像について

（前略）

ペガスス座は、馬の病気に対して効果が有るし、戦いで騎士を守ってくれる。

アンドロメダ座は、夫と妻の間に愛情を生じさせてくれるので、不倫を鎮（しず）める、とすら言われている。

カシオペヤ座は、弱った肉体を回復してくれるし、肉体の各部を強めてくれる。

蛇（ヘビ）座は、毒を追い払ってくれるし、毒を持つ動物の噛み傷を治してくれる。

ヘルクレス座は、戦いで勝利をもたらす。

竜座と大熊（オオグマ）座は、人を狡猾（こうかつ）にするし、人を賢くするし、人を勇敢にするし、人を神々と人々に受け入れさせる。

海蛇（ヒドラ）座は、知と富をもたらすし、毒に抵抗させる。

ケンタウルス座は、健康と長生きをもたらす。

祭壇座は、思いやりを保護してくれるし、人や物を神々に受け入れさせる。

鯨(クジラ)座は、人に感じを良くさせるし、人を慎重にさせるし、海と陸で人を幸せにするし、人が失(な)くした物を取り戻すのを助けてくれる。

アルゴ座であった竜骨(りゅうこつ)座と帆(ほ)座と艫(とも)座は、海での安全をもたらす。

兎(ウサギ)座は、詐欺(さぎ)と狂気に対して効果が有る。

大犬座は、水腫を治してくれるし、伝染病に抵抗させるし、獣、猛獣から守ってくれる。

オリオン座は、勝利をもたらす。

鷲(ワシ)座は、新たな栄光をもたらすし、老人を守ってくれる。

白鳥座は、麻痺(マヒ)とマラリアを治してくれる。

ペルセウス座は、嫉妬と呪いから解放してくれるし、雷と大嵐から守ってくれる。

Ｈａｒｔという星座は、狂人から守ってくれる。（ｈａｒｔは英語で鹿を意味するが、鹿の星座が当時は存在していたのか不明である。）

ここまでに話を留める。

第二部 第四十七章 ベヘニアン恒星の像について

（ベヘニアン恒星とは中世にヨーロッパとアラブで魔術に利用できると考えられた十五の恒星である。）

恒星の作用としては、
ヘルメスの意見によると、

ペルセウス座のメデューサの頭の目の変光星アルゴルは、
像が、首が血まみれの人の頭で、
神への祈願に良い成功をもたらすし、アルゴルの像を携帯している人を大胆に寛大にするし、肉体の各部を健全に保ってくれるし、呪いを助けてくれるし、敵からの邪悪な試みや呪いを敵に、はね返してくれる。

牡牛座のプレアデス星団は、
像が、幼い少女か、ランプで、
目の輝きを強めてくれるし、霊を集めてくれるし、風を起こしてくれるし、秘密や隠されたものを明かしてくれる。

牡牛座のアルデバランは、
像が、神のような人、飛行している人で、
富と栄光をもたらす。

馭者(ぎょしゃ)座のカペラは、
像が、楽器で楽しく成ろうとしている人で、
カペラの像を携帯している人が諸王の前で褒(ほ)めたたえられるようにしてくれるし、歯の痛みを救ってくれる。
（カペラはラテン語で雌ヤギを意味する。）

大犬座のシリウスは、
像が、犬と幼い少女で、
栄光、善意、人々や風の元素の霊からの好意をもたらすし、諸王や他の人々を鎮(しず)めて和解させる力をもたらす。

子犬座のプロキオンは、
像が、オスのニワトリか、三人の幼いメイドで、
神々や霊達や人々からの好意をもたらすし、呪いに対する力をもたらすし、健康を保ってくれる。

獅子座の心臓のレグルスは、
像が、ライオンか、ネコか、イスに座っている高貴な人で、
人を温和にしてくれるし、怒りを鎮(しず)めてくれるし、好意をもたらす。

小熊(コグマ)座の尾の北極星は、
像が、考え込んでいる男性か、オスの牛か、子牛で、
呪いに対して効力が有るし、北極星の像を携帯している人の旅を安全にしてくれる。

（原文を直訳すると「大熊座の尾」であるが、第一部第三十二章を考慮すると、「小熊座の尾の北極星」の誤りであると思われる。）

烏座の翼のギェナーは、

像が、カラスか、ヘビか、黒衣をまとった肌が黒い男性で、

人を短気にするし、大胆にするし、勇敢にするし、思慮深くするし、陰口を言う人にするし、わいせつな夢をもたらすし、悪人の霊を追い払ったり集めたりする力をもたらすし、人々や悪人の霊や風の元素の霊の悪意に対して有益である。

乙女座のスピカは、

像が、鳥か、商品を背負っている人で、

富をもたらすし、人や物を戦いに勝利させるし、不足や損害を除き去ってくれる。

牛飼い座のアークトゥルスは、

像が、馬か、オオカミか、おどっている男性で、

熱に対して良いし、しめつけて血を保持してくれる。

冠座のアルフェッカは、

像が、オスのニワトリか、王冠をかぶって前進している人で、

人々からの善意と愛情をもたらすし、貞淑さをもたらす。

蠍座の心臓のアンタレスは、

像が、鎧をまとい武装した男性か、サソリで、理解力と記憶力をもたらすし、良い血色を作るし、悪人の霊に対して役立つし、悪人の霊を追い払ってくれるし、悪人の霊を拘束してくれる。

琴座のベガは、像が、ワシか、ニワトリか、旅人で、人を寛大にしてくれるし、人を誇り高くしてくれるし、悪人の霊と獣に勝利する力をもたらす。

（「ベガ」という名前の由来は「急降下するワシ」を意味するアラビア語である。）

山羊座のデネブアルゲディは、像が、鹿か、ヤギか、怒っている男性で、繁栄の幸運をもたらすし、怒りを強める。

以上が、各ベヘニアン恒星が統治している石に刻むべき各ベヘニアン恒星の像である。

（第一部第三十二章にベヘニアン恒星が統治している石などが記されている。

ペルセウス座のメデューサの頭の目の変光星アルゴルは、統治している石は、ダイアモンドである。統治している植物は、ヘレボルス、ヨモギである。

牡牛座のプレアデス星団は、
統治している石は、水晶である。
統治している植物は、乳香、ウイキョウである。
統治している金属は、水銀である。

牡牛座のアルデバランは、
統治している石は、ルビーといった赤色の宝石である。
統治している植物は、オオアザミである。

馭者座のカペラは、
統治している石は、サファイアである。
統治している植物は、ホアハウンドとも呼ばれるニガハッカ、ミントとも
呼ばれるハッカ、ヨモギである。

大犬座のシリウスは、
統治している石は、緑柱石である。
統治している植物は、ヨモギである。

子犬座のプロキオンは、
統治している石は、メノウである。
統治している植物は、マリーゴールド、ペニーロイヤルミントである。

獅子座の心臓のレグルスは、

統治している石は、花崗岩である。
統治している植物は、ヨモギ、乳香である。

小熊座の尾の北極星は、
統治している石は、磁石である。
統治している植物は、葉と花が北を向いているチコリ、ヨモギ、ツルニチニチソウの花である。

烏座の翼のギェナーは、
統治している石は、ブラックオニキスといった黒い色の石である。
統治している植物は、栗といったトゲを持つ植物、ヒヨス、ヒレハリソウである。

乙女座のスピカは、
統治している石は、エメラルドである。
統治している植物は、セージ、クローバー、ツルニチニチソウ、ヨモギである。

牛飼い座のアークトゥルスは、
統治している石は、ジャスパーである。
統治している植物は、プランテインと呼ばれる調理用バナナである。

冠座のアルフェッカは、
統治している石は、トパーズである。

統治している植物は、ローズマリー、クローバー、セイヨウキヅタである。

蠍座の心臓のアンタレスは、
統治している石は、アメジストである。
統治している植物は、サフランである。

琴座のベガは、
統治している石は、かんらん石である。
統治している植物は、チコリ、カラクサケマンである。

山羊座のデネブアルゲディは、
統治している石は、玉髄である。
統治している植物は、マジョラム、ヨモギ、キャットニップとも呼ばれる
イヌハッカである。

）

第二部 第五十六章 論理が確証している事

世界、天、星々、四大元素には魂が有る。

世界、天、星々、四大元素は、世界、天、星々、四大元素の魂によって、魂を下の混合物の肉体の中にもたらす。

既に話したように、世界、天、星々、四大元素の魂の仲介によって、魂は肉体と一体化する。

世界全体は一つの肉体である、とすると、世界全体という肉体の各部が全ての生物の肉体なのである。

全体が、より完全で、より高貴であるほど、各部も完全で高貴なのである。世界全体という肉体が、より完全で、より高貴であるほど、各生物の肉体も完全で高貴なのである。

全ての不完全な肉体である、世界全体という肉体の各部である、ハエや虫といった全ての劣悪な動物が生きるに値して、命と魂を持っているのに、最も完全な高貴な肉体である、世界全体が命も魂も持っていないであろう、というのは非合理的である。

同様に、天、星々、四大元素が主に命と魂を全ての者にもたらすのに、天自体、星々自体、四大元素自体には命も魂も無いであろう、というのは非合理的である。

また、全ての木といった植物を自然にもたらす天、星々、四大元素よりも、全ての木といった植物は高貴であろう、というのは非合理的である。

土と水は、命が有って、木といった植物といった生物を生成し、命をもたらし、育て、増やす事を誰が否定できるのか？

独りでに増殖する生物によって、肉体的な種を持たない生物によって、土と水は、命が有って、命をもたらす事が、最も明らかに表れている。

四大元素自体に命も魂も無いのであれば、四大元素は、生物を生成し、育てる事もできないはずである。

しかし、土や水の魂ではなく、天の魂の感化力が、生物を生成していると、ある人々は多分、言うかもしれないが、プラトン主義者達は、次のように、答えている。

「偶然は、生物をもたらす事ができない。道具のように、生物が隣の生物を従わせる、のでなければ。技術者の手から離れた道具は、技術の結果をもたらす事ができない、のだから」

同様に、天の感化力は、生物や命から遠く離れているので、生物を下の者として(直接は)生成できない。

メルクリウスは、「De Communi」と呼んでいる本で、「増大か減少が世界に存在する全てのものを動かす」と話しているが、「動かす」には命が必要である。

全てのもの、大地ですら、動くので、特に、変化をうながす創造的な動きによって、全てのものには命が有る必要が有る。

テオプラストスは、「『天には命が有る』か疑う人は学者ではない」と話している。

「神が命を天にもたらしているので、天を動かす者である神は、天の中に形として表れている」事を否定している人は、全ての学問の基礎を破壊している事に成る。

世界には命、魂、感覚が有る。
なぜなら、世界は、命を、種から生じない植物にもたらす。
世界は、感覚を、性交によって生じたのではない動物にもたらす。

第三部 第三十九章 自然な、ありのままでは善いものである、上のものからの感化力が、どのように下のものでは悪く成って悪いものをもたらすのか

全ての能力や力は、上のものからの物、神からの物、知的存在である善良な霊的存在と星々からの物である。

上のもの、神、知的存在である善良な霊的存在と星々は、過(あやま)ちを犯さないし、悪事を行わない。

そのため、上のものからの感化力の悪意ではなく、感化力を受け取る下の者の悪意が、全ての悪いものと、下のものに存在する上のものとの食い違いをもたらしている。

このため、次のように、クリュシッポスは、正しく、詩で話している。
「人は、愚者のように、神々に無実の罪を着せて、人は、神々を人の全ての不幸の原因とみなしてしまうが、人の愚かさが、人自身を害しているのに」

そのため、次のように、ホメロスの話の中で、ユピテル、ゼウスは、オレステスがアイギストスに報復して殺した時の事を思い出して、神々の会議で、「人は、人自身の邪悪さによって危険に陥(おちい)った時に、『神々が悪の原因、源泉である』と非難する(。人が『神々が悪の原因、源泉である』と非難するのは、何と悪行である事か？！)」と話している。

悪人からの感化力を受け取ったものの邪悪さや弱さは、上のものからの(善い)効力を存続できない。

このため、不調和に満ちたものは、天からの(善い)感化力を受け取ると、不調和な奇形な悪いものをもたらす。

しかし、天に存在している間は、天の力は常に善いままである。

光をもたらす者である神から知的存在である善良な霊的存在や天を経由して月に至るまでは、言わば、第一の段階では、天からの力は善である。

けれども、悪いものが天からの力を受け取ると、天からの力は損(そこ)なわれてしまう。

また、多様な、受け取るものの性質によって、天からの力は多様な様相で受け取られる。

また、受け取るものが同じでも、不一致の諸性質によって、天からの力は多様と成るし、部分的には受け取るものから感化を与えられる。

そのため、受け取ったものがとらえた全てのものから、最終的には、上のものが送ったものとは異なるものがもたらされる。

このため、下のものによる有害な性質は、天から流入しているものとは遠く異なる。

そのため、かすめ目という不調を光のせいにするべきではなく、
燃えるのを火のせいにするべきではなく、
傷を剣のせいにするべきではなく、
足かせと牢獄を裁判官のせいにするべきではなく、
悪意と犯罪者のせいにするべきである。

悪人の過（あやま）ちを天からの感化力のせいにするべきではない。

このため、人に善意が有ると、天からの感化力は善いものとして全てのものに協力する。

しかし、人に悪意や罪が有ると、神からの善いものは、人の中に存在したとしても、人から離れてしまい、全てのものが悪いものとして作用してしまう。

そのため、全ての人の悪の原因は罪である。
罪とは、人の魂の不調なのである。

このため、悪い統治や、天からの感化力が望むものからの堕落、全てのものの反乱、不調は、人が破損したためである。

人が破損すると、最も適切に、最も甘美な調和で構成されていた人の肉体の中で、四大元素の不調が始まるし、悪い性質が生じる。

そして、善いものですら不調に成って分裂して、移り変わりによって、肉体を苦しめてしまう。

その時、過剰か減少か、内面的な事故か、過剰な食べ物によって、最も激しい不調が認められて、不調から過剰な体液が生成されて、不調が原因で欠陥が生じる。

さらに、動物的な精神は、タガが外れて、争いに陥ってしまう。

すると、天からの感化力は、天からの感化力自体は善いものであるが、(悪い)人には有害と成ってしまう。

太陽からの光が(直視すると)人の目には悪い性質であるように。

そのため、土星は、苦しみ、退屈、憂鬱、狂気、悲しみ、頑固、厳しさ、神への冒涜、自暴自棄、嘘つき、霊の出現、恐怖、死者の徘徊、悪人の霊の活発な活動を(悪い)人にもたらしてしまう。

木星は、貪欲、富を得るための邪悪な機会、圧政を(悪い)人にもたらしてしまう。

火星は、怒り、神を冒涜する傲慢、暴力、激しい頑固を(悪い)人にもたらしてしまう。

太陽は、傲慢、飽く事を知らない野望を(悪い)人にもたらしてしまう。

金星は、好色的な不実さ、好色な愛着、悪い淫らな性欲を(悪い)人にもたらしてしまう。

水星は、詐欺、悪賢い悪い欲望、罪への傾向を(悪い)人にもたらしてしまう。

月は、気まぐれ、人の性質に反した物を(悪い)人にもたらしてしまう。

このため、(悪い)人は、天からの物に相応しくないので、損害を受け取る。

しかし、人は、天から利益を受け取るべきなのである。

天からの物との不一致によって、(悪い)人は悪人の霊に従う羽目に成る。
悪人の霊は、神からの役人として、(悪い)人を罰する役割を果たす。
とプロクロスは話している。

(悪い)人は、罪をつぐなうまで、罪を清めるまで、神の性質に戻るまで、
悪人の霊によって苦しめられる。

そのため、優れた魔術師は、星々の配置による災害の性質を予知すると、
予防したり、注意したり、守ったりして、星々の配置によって襲いかかって
くる災害を防止できるし、
優れた魔術師は、星々の配置による被害を最小限しか受けないし、
優れた魔術師は、星々の配置による被害を最小限しか受けず、星々の配置か
ら利益を受け取る。

すでに話したように、(悪い)人は、星々の配置から損害を受け取る。
しかし、人は、天から利益を受け取るべきなのである。